

学校図書館 委員意見の整理と課題

1 第1回での委員の意見

【子どもにたくさんの本に触れる機会を提供する】

- ・蔵書に対して政策を練っていくことも必要
- ・情報報センターとしての役割も果たせるよう資料は新しくしたい。古いと間違った情報を与える。
- ・学校司書の勤務時間や日数を改善できるといい。

【組織的な学校図書館の運営推進】

- ・義務教育段階できちんと読書の習慣を身に付けておく必要がある。
- ・司書や教諭の研修の機会を大切にしたい。
- ・市として読んで欲しい本を示したらどうか。

【学校司書未配置校の充実】

- ・全市的に学校図書館の格差が生まれないようにしたい
- ・学校応援団など人材のシェアができればいい。
- ・学校司書がいないと環境整備が難しい。

2 目指す学校図書館の姿

◎誰もが気軽に立ち寄ることのできる図書館（明るい環境・人がいる）

- 読書を通して
- ◎夢を見出す
 - ◎思考力・問題解決能力・情報活用能力・語彙力等を身に付ける
 - ◎想像力を養う



3 協議の視点

- (1) 子どもがたくさんの本に触れる機会を提供するための取組。
- (2) 専門性に裏打ちされた組織的な学校図書館運営を推進していくための取組。
- (3) 小規模校（学校司書未配置校）の学校図書館経営の充実を図るための取組。

4 今後、検討が必要な取り組み

①市立図書館と学校図書館の連携強化

- ・移動図書館（ぶっくる）を、学校のイベントや放課後子ども教室、小規模校のオリエンテーション等で活用する。
- ・市立図書館の協力貸出の受付時間を閉館までとしたり、受け取り館を選べるようにしたりし、活用を強化する。

②学校図書館活用ガイドラインの作成

- ・読書の重要性を改めて教員に周知する。
- ・校長に学校図書館長であるという自覚を促す。
- ・授業での活用を促す。
- ・蔵書のバランスや廃棄すべき本の基準、配架の仕方等標準的に整備したい内容を掲載する。

③「平成の教導石」の活用

- ・「平成の教導石」を活用して市内の全学校司書で情報交流を行う。
- ・将来的にはコラボノートを活用して、学校司書による学習支援・読書支援を行う。

④研修の充実

- ・学校図書館が子どもにとって居心地のよい場所となるよう教員・学校司書を対象に環境整備や子ども理解研修を充実。
- ・学校司書の中学校区での研修の実施
（配架、イベント、貸出方法等の情報換・9年間を見通しての読書指導・情報活用力の育成・個に応じた対応の仕方 等）

⑤学校図書館の捉え方への意識改革

- ・小規模校は学校全体を学校図書館と捉えた取組を進める。
- ・学校全体を学校図書館と捉えた取組が難しい学校は、人の配置（ボランティア・学校司書等）を検討する。
- ・市立図書館の協力（ぶっくるの活用）